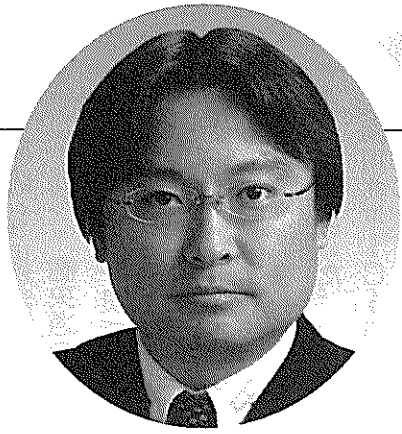


平成24年2月
発行：あらい一徳
あらい一徳県政調査事務所
〒364-0031 北本市中央1-81
Tel.048-594-1600 Fax.048-594-1602

県政調査事務所は、月～金のAM9:30～PM5:30に
開設中。ご意見ご要望をお寄せください。



埼玉県議会議員

あらい一徳

安心、安全で豊かな暮らしの実現を目指して

一陽来復を願う

今年もひたすら世のため、人のために

2012年が明けました。健やかに新しい年を迎えられました皆様にお慶び申し上げます。また、心ならずも病と闘っておられます皆様の日も早い回復を心からお祈りいたします。

昨年3月の東日本大震災を始め、多くの自然災害に見舞われ、埼玉県のみならず、日本が大きな試練に直面した一年でありました。今年も県民の皆様一人おひとりの力を結集してこれらの試練を乗り越え、新たな希望をもって、力強く生きていく一年にしたいものと考えております。

現在の埼玉を取り巻く環境は、決して楽観できるものではなく、早急に解決すべき喫緊の課題が山積しております。少子高齢化や雇用不安などにどう対処するか、今ほど政治の力が重要な時代はないものと思っております。

私は、昨年4月に埼玉県議会議員に就任以来、これまで3回の定例会を経験し、そのつど、皆様方の声や思いを政治や行政に生かすため、積極的に発言したり、行動し、疑問点を質したり、諸提案・提言を行ってまいりました。

今年も、県議会議員2年目を迎えます。皆様にお約束した「安心、安全で豊かな暮らしの実現」を目指し、埼玉から日本を変革していく気概を持って、課題解決に向け全力で取り組む覚悟です。

今後とも、変わらぬご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

災害に強いまちづくり

12月定例会が開会

平成23年12月定例会が12月2日から22日まで、21日間の日程で開かれました。

昨年3月の東日本大震災を受け、今定例会も、災害に強いまちづくりをどう進めるかが大きなテーマとなりました。

具体的には、災害時の医療体制を強化するために災害拠点病院に衛星電話や応急用医療資器材を整備したり、地域の医療課題を解決するため、地域医療再生基金を積み増し、活用することなどを盛り込んだ議案が執行部から提案されました。いずれも、県民の生命を守る喫緊の課題であり、私は慎重審議の上、すべての議案に賛成いたしました。

また、一般質問においては、TPP参加がもたらす県農業への影響、ハツ場ダム建設の是非、福島第一原発事故後の放射能測定や除染作業など、県が抱える課

高品質な工事、組織人材の育成のために

常任委員会、特別委員会での私の発言

12月定例会において、私の所属する県土都市整備常任委員会では、一般国道のトンネル工事や橋りょう整備の請負契約、また、県営公園の新たな指定管理者選定などについて審議しました。

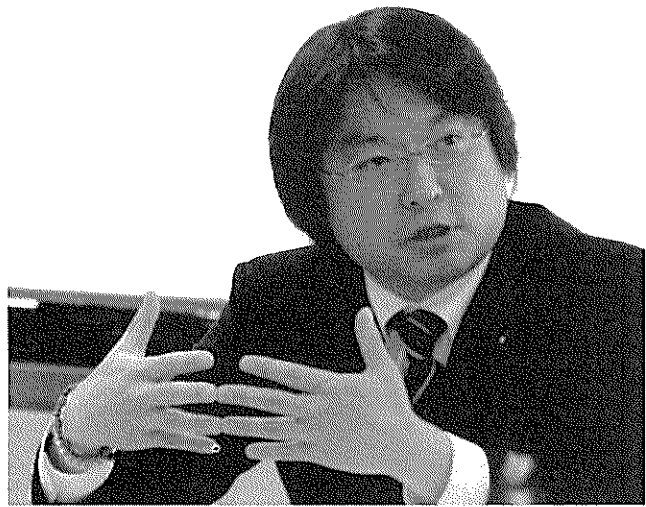
請負契約案件において、私は、総合評価方式による一般競争入札で行われた飯能市内の一般国道299号のトンネル工事に着目しました。落札率が64・52%と低かったためであり、インフラ整備において最も重要な品質の保証がなされるのか懸念されたためです。

そこで私は主に①低落札率の場合、

どのような調査を行うのか②品質をどう確保するのか?などを質しました。県道路街路課によると、「落札率が低いケースでは、約40種類の調書を求め、入札価格根拠や諸経費、労務金額などの内訳根拠を調査している」とのことです。今回のケースも調査した結果、問題ないとの判断に至ったとのことでした。また、「施工中の段階確認や中間検査の回数を増やしたり、監督員を通常2人から3人体制とするなど、施工管理体制を強化している」とし、品質確保に全力で取り組んでいるとの答弁でした。私はあらためて「低落札では、品質の保証のほか、下請け業者へのしわ寄せも懸念され、その防止のため、しっかりとした対策を」と強く要望しました。

自主防災組織の結成で手厚い支援を

総合的な危機管理・大規模災害対策特別委員会では、定例会ごとに審査するテーマが決まっており、今回は「災害に強いまちづくり・地域社会づくり」について審査しました。執行部から県内での自主防災組織の結成状況や、そうした組織のリーダー育成状況、また、災害が発生した際に、支援をさせていただく企業との協定の締結状況などについて説明を受けた後、審議を行いました。



委員会の審議では手振りを交えて積極的に発言

私は「自主防災組織の結成や運営にあたっては、高齢化やリーダー不足、資器材不足がどの地域でも大きな課題だ」と指摘し、県の対応を質しました。県危機管理課は「県としては、これまで行ってきた初級編のリーダー養成講座に加え、本年度から、災害時図上訓練や被災地の視察といった上級編の養成講座も始めた。今後、回数を増やし、より多くの県民に参加してもらう仕組みを考えたい」との答弁がありました。また、資器材購入には県の補助制度があることから、「資器材の充実を図るため、来年度以降、予算額の増額に努めていきたい」との答えを得ることができました。

観光からの経済活性化と、不当ビジネスの実態を研究

議員提案条例の制定のための勉強会

昨年10月より、私を含め自民県議団の一期生が中心となり、観光推進条例の制定検討や貧困ビジネスの規制に関する勉強会を行っています。

長引く不況で県内経済が冷え込む昨今、次代のリーディング産業である観光産業の振興を通じ、県内経済の活性化を図るのが目的であり、その基盤整備として「観光推進条例」を議員提案で制定しようというものです。具体的には、すでに条例制定をしている他都道府県を視察し、先例を研究・調査しつつ条例案の中身を検討しており、2月定例会での提案に向け、作業を進めています。

貧困ビジネスとは、貧困者など社会的に弱い立場の人たちに狙いを定め、利益を得ようとするビジネスであり、違法行為であったり、犯罪と指摘される場合も多くあります。例えば、無料低額宿泊所などの施設の利用者本人に渡された生活保護費を、本人の意思に反して不当に徴収してしまうような事業者もいるのが現実です。こうした実態にメスを入れ、貧困者を守るために、何らかの規制が可能かどうか、調査、研究を進めています。

圏央道の早期開通を要望

圏央道の建設地を視察

11月1日、私も一員であります県議会の圏央道建設・沿線地域整備促進議員連盟で、圏央道の建設地を視察しました。JR高崎線の下をくぐるアンダーパスとなる北本市二ツ家地区では工事が急ピッチで進んでいました。

特に桶川北本ICと白岡菫蒲ICは平成26年度以降の開通と2年先延ばしにされた経緯もあり、国交省の担当者に早期開通を要望し、「26年度内の開通に向け全力で取り組む」との前向きな答えをいただきました。

圏央道の開通は交通渋滞の緩和や、首都圏の機能再編成、産業活力の向上、災害時の緊急輸送道路などの利点があり、今後も引き続き、早期開通を強く要望してまいります。



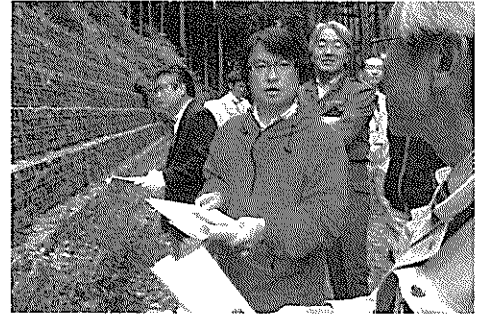
写真や模型を参考に圏央道の建設状況の説明を聞く

地元木材を小学校で使用

地産地消を学ぶ視察

11月8日、自民党県議団の一期生有志とともに、秩父地方の森林土木工事を視察し、併せて、スギの伐採現場や、そのスギを材料に内装を木質化した小学校を見て回りました。

訪問した東秩父村立東小学校はコンク

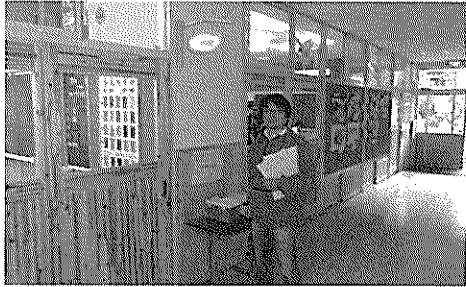


スギの伐採現場を視察

リート製の校舎が老朽化したため、床や壁、教室の扉のほか、用具入れなどを木質化したとのことでした。

木質化の

狙いは、児童への情操教育、調温・調湿効果、地元木材の有効活用のためとの説明を受けました。私は、地産地消や自然に親しむという子どもたちの教育上、メリットが大きいと感じるとともに、ぜひ、他自治体でも積極的に導入を図ることが効果的であると思いました。



地元の木材を使用した地域の小学校にて

ロマンのあるまちづくり

地域資源を活かした景観行政の調査

11月10、11の両日、県議会の県土都市整備委員会で、新潟県南魚沼市を視察し、地域資源を活かした景観行政について現地調査を行いました。

旧塩沢町中心市街地にある牧之（ぼくし）通りは、旧三国街道沿いの宿場町として栄えた歴史と文化のある商店街でしたが、近年の無秩序な改装によって、昔ながらの街並みの魅力を失い、地域全体の停滞を招いてしまったといえます。

このため、地元商店街の有志が立ち上がり、街並み整備を始めたとのことでした。街路事業（道路改良）に合わせて、建物を改築し、家屋を2m下げて、メインの目抜き道路の歩道部分に当たる私有地部分には雁木（雪よけのひさし）を設

置、家屋も昔ながらのものに建て直したといえます。建築物の意匠の統一や、色彩の制限などデザインのルールを取り決めたことで、地域に一体感と統一感が生まれていました。地元の組合長は「まちづくりとは、非日常の異次元空間の演出・創出であり、ロマンと物語が必要だ」と力説していました。停滞に悩む商店街にとつて参考になる取り組みであると実感しました。

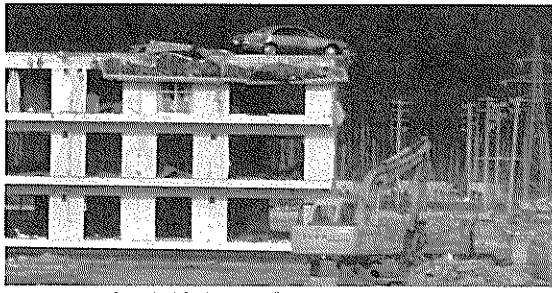
7割の家屋倒壊からの復旧

宮城県被災地を視察

11月28、29の両日、自民党埼玉県議団の一員として、被災地の仙台市と南三陸町を視察し、震災から今日までの復旧状況などを現地調査してきました。

南三陸町訪問は3度目。今回は佐藤仁町長に直接、お話をうかがう機会を得ました。

佐藤町長によれば、町内7割の家屋が壊滅し、電気も3か月、水道も5か月、完全復旧に要したそうです。一時期は9500人が避難所生活を強いられ「町民は水も電気も情報もプライバシーもない生活だった」と振り返っていました。



乗用車が乗り上げたままの警察官舎

「スタートライン」

コラム

昨年11月、北本市民の一人として、うれしい出来事がありました。

「第9回埼玉B級ご当地グルメ王決定戦inきたもと」で、北本市から出品された「真っ赤な誘惑 北本トマトカレー」が見事に優勝を果たしたのです。結果発表の瞬間、飛び上がって喜ぶメンバーを目にして、「皆さんの苦勞が報われて良かった」としみじみと思ったものです。しかし、これは「ゴール」ではなく、あくまで「スタート」なのだとも思いました。

通常、B級グルメという、地元ならではの味としてマチの人々の間で広く定着しており、加えて、安価で食べられる庶民の味、と定義できるのではないのでしょうか。全国のB級グルメ大会で優勝するグルメはほとんどが、このケースに当てはまるといえます。

今回の北本トマトカレーの場合は、8月に市民公募によるコンテストで選ばれており、まだまだ市民の間で定着しているグルメとは言えないでしょう。ただ、優勝したということは、「庶民の味」としてお墨付きを得たのであり、大きな可能性を秘めているのではないかと考えています。

北本市産業観光課によれば、現在、飲食店4軒でトマトカレーを取り扱っているほか、「何店か引き合いがある」状態だそうです。これは良い兆しだと思います。

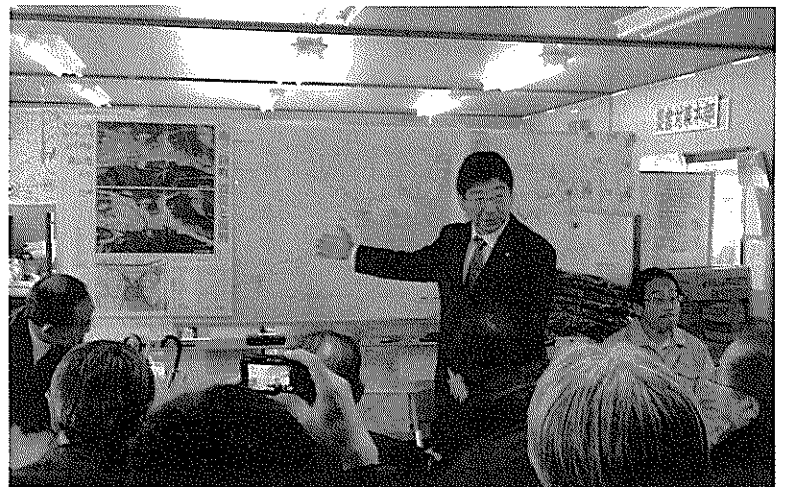
北本は観光都市100万人宣言をしています。北本市民一人一人が、「北本を代表する味」としてトマトカレーを育てていくこと、そして、「トマトカレーのマチ」として情報発信をしていく必要があるのではないのでしょうか。それが、ひいては、北本のトマトをはじめとする農業振興や、観光振興につながり、北本のマチおこしになると考えています。まだ、スタートラインに立ったばかりです。

お知らせ

私、あらい一徳は2月定例会中の2月29日、本会議において質問を行う予定です。この質問は、知事が議会に提出する議案に対する質疑や、県政全般に対する県の考え方を聞くものです。

皆様にお約束しております「安心安全で豊かな暮らしの実現」を目指し、経済活性化や健康・医療、教育、災害に強いまちづくりなど幅広い分野で、私なりの提案・提言を盛り込んだ質問を行う考えです。皆さんの考えや思いをしっかりと県政に届けてまいります。

日時は2月29日午前10時より、埼玉県議会議事堂（埼玉県庁内）にて行います。ご興味のある方は、事務所までご連絡ください。



町民9500人の避難所生活を振り返り、決断の大切さを語る佐藤仁町長